

平成 30 年度地域教育コーディネーター養成セミナー実施報告

実施日：平成 31 年 2 月 19 日

○説明「栃木県における地域教育コーディネーターの養成について」

栃木県教育委員会事務局生涯学習課副主幹 吉田 正道

初めに、コーディネーターに関する動向と必要性について、次に、栃木県の地域教育コーディネーターの概要について、事例やデータ等を示しながら説明がありました。これからの学校と地域の姿は、協働して同じゴールをねらうことであるという話もありました。

地域全体で未来を担う子どもを成長させていくためには、地域学校協働活動を進める上で、地域教育コーディネーターの役割が大切であることを再確認できました。



○事例発表「地域教育コーディネーターの取組の実際」

事例発表では、西中田こみこみスクール（西中田小学校学校支援地域本部）の取組について、水谷先生から御説明いただきました。スーパーバイザーである山川氏の西中田こみこみスクールにおける学校支援事業や放課後子ども教室、放課後児童クラブでの取組について説明がありました。地域主体の活動が継続できるポイントとして、地域住民のみで校舎が利用可能なこと、学校内に事務局があること、地域主体の運営が必要であること、等が挙げられました。また、大事にしてきたこととしては、学校・地域がそれぞれの想いを伝えること、ボランティアの方々へ感謝すること、つないだ縁は長く大事にすること、等が挙げられました。今後の活動の参考になることがいくつも出てきました。



○講話「地域教育コーディネーターに期待される役割」

東北学院大学 教養学部長 水谷 修 氏

水谷先生には、「地域教育コーディネーターに期待される役割」と題して、御講話をいただきました。みやぎの協働教育や、宮城県富谷市の地域・学校・家庭をつなぐ取組、なぜ、連携・協働が必要なのか、地域課題・コミュニティづくりとどのようにかわるのか等についてのお話でした。地域教育コーディネーターの役割と留意点について、示唆に富むお話を聞くことができ、地域課題解決に向けた取組等について理解を深めることができました。連携・協働を推進するには、関わる人たちを対象とした研修の強化が重要である、どのような工夫や配慮をしたら、活動にかかわる人たちが面白いとすることができるかをそれぞれの立場で考えることも、取組の定着・促進に必要である、等のアドバイスも含め、今後の活動のヒントをたくさんいただきました。



【受講者の感想から】

- 学校と地域社会の連携協働が意図的に「関係」をつくり出す取組であるという視点や、子どもたちは今を生きている、社会を今担っているという考え方に感銘を受けました。
- どれだけ子どもたちに関係性をもつ多くの社会を設けられるかがミソだと感じました。関わり合うおもしろさを見つけることで、長続きできる関係を築けると感じました。
- どの話も大変興味深く、参考になるものばかりでたくさんのことを学ばせていただきました。中でも、西中田小学校での活動(放課後子ども教室等)を参考にさせていただきたいと思いました。スーパーバイザーの存在や事務局を設置することの重要性を感じました。
- 水谷先生のお話の中にあつた「関係性」希薄化や、その構築の重要性、また、「子どもに学ぶ」という姿勢の大切さ、私も日々実践していることなので、大変共感しながら拝聴させていただきました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL:028-665-7206

E-mail: shogai-c@tochigi-edu.ed.jp

